

お手紙 ごさよ

～じしゃひなんママのきもちが奏でる～♪

10

ぼろろん

春夏号

こんにちは！みなさまいかがお過ごしですか？

最近はやっと、昼間のおひさまの暖かさを感じてきましたね。

新生活を始める方もいらっしゃると思います。

新しい環境で期待と不安があるかと思いますが、

温かい言葉が届くと心がほっこり和みますね。

あれから8年が過ぎ、たくさんの方と出会えることができました。

ほんとうに嬉しいですよ♪

これからもみなさんと楽しく交流していきたいので、ご連絡お待ちしております

もくじ

- 1 ごあいさつ
- 2 おしゃべりクッキング・郷土料理を食べよう
- 3
- 4 講談 母親たちの祈り
- 5 佐原さん・福島で暮らして
- 6 本の紹介 棚澤さん・データサイトさん
- 7 ぼろろんの時間
- 8 ほっこりたいむ

おしゃべリックキング

郷土料理を食べよう



ぽろろんスタッフ
Seikoちゃん企画

子どもを抱えながら、原発事故の見えない恐怖から逃げ、故郷から離れて暮らすのはどんなに大変で辛いだろう。自分が福島県に住んでいたら「自主避難」という選択をしていたと思うし、終わりの見えない原発事故は他人事ではない。

「原発事故により、埼玉県へ避難している人がたくさんいることを知ってほしい。

福島県でみんな暮らしをしていたのかを知りたい」その思いから、ぽろろんのメンバーが郷土料理をつくり、それを食べながらいろんな方々と語り合うこの企画を考えました。



スルメ、ニンジンを切って混せて漬けるだけの簡単料理。

昆布を入れたりそれぞれの家庭の味で作ります。

おつまみ、おかずとして親しまれていて、お正月には欠かせないお料理です。

<感想>みなさんから「おいしい!」と食べていただき、レシピなどを聞かれました。福島の郷土料理を伝えられてよかったです。調理をしながら会話もできて、とてもリラックスできました。



子供の頃母が作ってくれたさんまの団子汁。

醤油ベースでシンプルな飽きない味です。

豆腐は三角に切るのがポイント!

<感想>のらさんではさんまが無く鶏に変更!

子供が多く結果オーライでした!

JOYさんは食材確保で鶏とさんまで二度美味しい!



はあちゃんが良く作ってくれた鰯の焼きひたしを私がアレンジしました。ごはんと共に濃いめの味付けが食欲をそそります。

<感想>目分量で味をみながら豪快に作る姿に笑いも起き、料理をみんなでワイワイ一緒に作り、食べながら避難の実態を伝えると、リラックスして和やかになり、

共感していただけたので嬉しかったです。



子どもの頃に数回食べたはらこ飯。

魚が好きだった私は、家族に食べさせたい思いで毎年秋鮭の時期に作るようになりました。

<感想>一緒に料理をしながら、震災のこと、福島のことをひとりの女性として共感していただけるので、ハードルが低くなり会話がしやすかったです。



人にはそれぞれの思い出の味がある。

家庭の味と一緒に作り、味わうことで「埼玉で共に暮らす仲間」としての会話が広がるのでは?と考えて『おしゃべリックキング 郷土料理を食べよう』を開催しました。

地域の中で共生しながら、災害や防災を考えるきっかけにするためにも、今後もさまざまな場所で実施していきたいと思います。



出張キャラバンいたします~!ぜひお声かけくださいませ。

【講談 母親たちの祈り】



主催：原発避難者と歩む@川越
ぼろろん
ここカフェ@川越

ルポ母子避難より 消されゆく原発避難者

1/13（日）クラッセ川越でいわき市出身の講談師 神田香織さんによる講談が実現しました。講談の内容は川越在住で二児の母でもある吉田千亜さんの著書『ルポ母子避難』です。

第1部では、ルポ母子避難に書かれているいわき市出身で三年間川越市に母子避難しその後帰還された母親と、現在も川越市で避難生活を続いている母親との対談も行い「それぞれの今」を語りました。

主催は川越市民を中心に結成された「原発避難者と歩む@川越」と「ぼろろん」と「ここカフェ@川越」です。

偶然にも、いわき市と川越市が繋がりました。

会場は熱気ムンムンで、定員の170名を超える大盛況でした。

これはチケット販売にご尽力いただきました、多くの川越市民のみなさまのおかげです。

神田香織さんの講談では、ルポ母子避難に書かれている2人の母親たちのお話を熱演されました。

3.11直後の津波に流されそうになりながらも必死に逃げ惑う緊迫した状況、避難を決めるまでの葛藤、避難先で浴びせられる差別問題、裁判で語られた亡き母への手紙の朗読など、圧巻の語り口に会場は息を呑み、涙を拭う姿も多く見られ感動に包まれました。

第2部は、いわき市から川越市に避難中の鈴木直子さんが「なぜ避難を継続しているのか?」と避難者の現状をお話し、その後講談で語られたご本人、尾川亜子（仮名）さんと鈴木直子さんで、避難当時の話・帰還された現在のふくしまの現状などを対談形式で行いました。

尾川さんは、いわき市に帰還されて家族揃って生活できて幸せだが、復興一色のふくしまでの暮らしには違和感があるし、放射能の危険性を口にできない暮らし、モニタリングポスト撤去の問題、廢炉や汚染土の再利用など、たくさんの悩みをお話してくれました。人前で話すのは久しぶりと緊張気味の尾川さんでしたが、会場の皆さんとの温かい空気、頷きながら真剣に聞いてくださる姿勢にはとても感動していました。

参加者アンケートの中には、「避難者がまだ近くにいるなんて知らなかった」や「原発事故はもう終わったものだと思っていた」や「講談で聞くと臨場感があり、リアルに伝わってきて胸が苦しくなった」など、様々なご意見をいただきました。

尾川さんと吉田千亜さんと鈴木直子さんの3人で2012年に立ち上げた「ここカフェ@川越」避難者支援団体が、今こうして多くの地域住民と共に協力し、活動していることがとても信じられないし、さまざまな世代や環境が違う中に、避難者が入り混じり語りあって、一つのことを成功させ喜びを分かち合う、とても幸せな時間となりました。



福島に暮らして



NPO法人 ふくしま30年プロジェクトの理事長として、福島に暮らしながら市民の放射能への不安に対応し、市民放射能測定所として活動を続けてこられた佐原真紀さんにお話を伺いました。



佐原真紀さん

NPO法人ふくしま30年プロジェクト理事長

もうすぐ、東日本大震災と原発事故から丸8年を迎えます。

この8年の間に、私は様々な人と繋がり、学び、共に放射能問題を考え続けてきました。

それと同時進行で「復興」という言葉と共にますます風化が進み、もうあの事故のことは忘れ去られようとしている雰囲気もどんどん広がってきています。

8年という年月は子どもの成長には大きな変化の時期であり、娘が幼稚園卒園式前日の出来事だったのに、もうすぐ中学3年生。

震災当時の記憶がしっかりと残っていない今の小学生。今の大学生でさえ、あの頃のことは幼すぎてよく覚えていないという世代も増えてきています。

2011年秋から市民団体として、放射能を測り、県内外で福島の現状を伝える活動と、放射能や健康をテーマに、講演会や交流会の開催もしています。その活動内容も市民の要望も少しずつ変化があります。

変わらない事は、私たちは決して市民の不安を煽るのではなく、かといって安全PRばかりするのではなく、わかっている事実を伝えることで、それが判断できるようお手伝いすることだと思っています。

それと同時に、次世代に繋げる、若い世代も含めた話し合いの場作りも必要だと思っています。

私は、復興という言葉の陰でやむやにされている部分を問題視しながらも、福島に住む市民が前向きに元気になっていく事は確実に必要だとも思っていて、そのさじ加減が今後のテーマだと感じています。未来に向けて子どもを守っていくために何が必要なのか。今後はこれまで学んできた経験を活かし、どこにどのように意見を伝えるべきか見極める力をつけ、ここ福島から未来へ繋がる学びの場の提供と、発信を大切に考えています。

福島が、そしてこの国が健全な暮らしを回復するまで見守っていくつもりです。

知ってほしい、いまの福島のこと、知ってほしい、放射能の汚染のこと

ほろんからの本の紹介



福島のお母さんのいまをつづる!

著者：棚澤明子さん

『福島のお母さん、いま、希望は見えますか?』(彩流社)
『福島のお母さん、聞かせて、その小さな声を』(彩流社)

実害が“風評被害”と言い換えられ、何もかもすっかり“終わったこと”にされつつある社会の閉塞感が息苦しくなり、どこに希望を見い出して子育てをしていいかおよいのかを福島のお母さんたちと一緒に考えたいと思ったことが2冊目を作ったきっかけです。

聞い方を見つけたこと、手を繋げる相手と出会ったことから希望を見い出した方、甲状腺がんや避難先での経済的困窮から希望を見出せずにいる方など、登場してくださった方の現状はそれぞれですが、すべての方が口にしたのは「この現実をなかったことにしてはいけない」「希望は現実を直視した先にしか生まれない」ということ。あの日から8年、私も改めてこの言葉を噛みしめています。

先日、出版記念イベントの参加者から「私もできることをする、と決めました。次に何かするときはお手伝いさせて！」と声をかけられて涙が出ました。私が望んできたのはまさに、無関心だった人たちの中から新しい芽が出ること。

小さな声を伝え続けることで少しずつ世界が変わると信じて、書き続けたいと思っています。

市民4,000人の力で記録した放射能地図!!

「図説」

17都県放射能測定マップ+読み解き集

2018年11月『「図説」17都県放射能測定マップ+読み解き集』が発行されました。

参加測定室31測定室（約メンバー150名）、食品データは約16,000件、土壤データは約3,400件（のべ4,000人の協力）という膨大なデータが収録されています。

市民による中立的調査と測定値という事実の積み上げが重要な意味を持つ貴重な一冊です。ぜひお手にとってご一読を！



（発売元：みんなのデータサイト出版）

～棚澤さんからのメッセージ～

東京で子育てをしながら文章を書く仕事をしてきた私が、母子避難のお母さんと初めて出会ったのは2012年の秋。避難先の団地で予想外のバッシングに苦しんでいるという話を聞き、同じ東京で暮らす私たちがそのような現実を知らず、知らん顔をしてきたことに愕然としました。そして原発事故で被災したお母さんたちの声を広く伝えていくことが、同時代を生きる母親であり、書くことを生業とする自分の使命だと感じました。一念発起して、現地で子育てを続ける方、避難した方、帰還した方など、たくさんのお母さんを訪ねてメディアが拾わない小さな声をまとめたのが、『福島のお母さん、聞かせて、その小さな声を』（2016年3月／彩流社）です。

それから3年を経て、先日、続編『福島のお母さん、いま、希望は見えますか?』（2019年2月／彩流社）を出版しました。

実害が“風評被害”と言い換えられ、何もかもすっかり“終わったこと”にされつつある社会の閉塞感が息苦しくなり、どこに希望を見い出して子育てをしていいかおよいのかを福島のお母さんたちと一緒に考えたいと思ったことが2冊目を作ったきっかけです。

聞い方を見つけたこと、手を繋げる相手と出会ったことから希望を見い出した方、甲状腺がんや避難先での経済的困窮から希望を見出せずにいる方など、登場してくださった方の現状はそれぞれですが、すべての方が口にしたのは「この現実をなかったことにしてはいけない」「希望は現実を直視した先にしか生まれない」ということ。あの日から8年、私も改めてこの言葉を噛みしめています。

先日、出版記念イベントの参加者から「私もできることをする、と決めました。次に何かするときはお手伝いさせて！」と声をかけられて涙が出ました。私が望んできたのはまさに、無関心だった人たちの中から新しい芽が出ること。

小さな声を伝え続けることで少しずつ世界が変わると信じて、書き続けたいと思っています。



ほろんの時間

～活動の報告～

埼玉県内各地で自主避難ママの交流会を開いています。懐かしい話をしたり、方言で話したりしてほっこりしませんか？沢山の方々が交流会に参加して笑顔になっています。パパの参加も増えました。

一緒に楽しみましょう♪



10月21日（日）『福島を考える』学習会
生活クラブ本部にて、埼玉の方々に避難の事、
被災の事などを話、福島の事を知ってもらい、
一緒に考える学習会を行いました。
ランチにカレーをいただき交流会を行いました。



11月14日（水）ボーリング大会
毎年恒例埼玉県民の日！
学校が休校なのでみんなでボーリング大会をしました。
子どもに負けない！と大人がはりきって楽しみました。
最高のストレス解消♪



1月30日（水）おしゃべりクリッキング
東川口クラブjoyさんに、郷土料理や思い出の料理を埼玉ママ達と一緒に作り、震災の話をしながら一緒に楽しく交流出来ました。
料理を通して福島の話を出来うれしかったです。

1月13日（日）講演会
クラッセ川越にて避難の事、被災の事を講談師、
神田かおりさんで講演を行いました。
涙を流す方や「そういう事情を知らなかった」
という感想を述べる方など見られました。
沢山の方々に福島へ思いを馳せてもらいました。

12月26日（水）思い出の料理で交流会
ヘルシーのらさんで福島での思い出の料理を
避難ママが作り、埼玉ママ達と一緒に料理の話、
震災の話をしながら楽しく交流できました。



2月10日（日）いちご狩りバスツアー♪
みなさんが毎年楽しみにしているいちごバスツアーを今年も行いました。
タケダ・赤い羽根さんから頂いた助成金にて、計32名で埼玉県所沢市
「いちごのマルシェ」さんでいちご狩りをしました。
苺の種類は『あきひめ』『かおり』の2種類いただきました。みんなで食べ比べ
して「こっちが甘~い」「こっちがジューシー」「私はこっちが好き~」と
楽しそうに口いっぱいに苺をほおばり食べていました。みんなで美味しい苺を
食べながら会話を弾みます。日々の大変な事などみんなで話が出来るとても
良い時間だと思います。パパの参加も増え、昨年歩かなかった7歳のお子さまが
今年はぶら下がっている苺を直接口に運んでいました！
日々頑張っているママ、パパ、子ども達には、楽しく過ごせる場所が必要だと
感じます。大切な宝の子ども達を守る親。これからも地域の方々に沢山支えられ、
みんなで協力していきたいと思います。

ほっとたいむ



小屋とひまわり
画：WATARUさん（福島→川越）

ぽろろんのお問い合わせ先はこちらです。感想やご意見、ご要望をお待ちしております。

担当 070-5594-0053（鈴木） miumiu705@ezweb.ne.jp

募金のご協力を！避難者同士の交流事業に充当いたします。

ご協力をお願いいたします。

●ゆうちょ銀行

【店番号】038 【記号】10340 【口座番号】70718571 【名称】ぽろろん

●他行からのお振込みの場合

【店番号】〇三八 【預金種目】普通預金 【口座番号】7071857 【名称】ぽろろん

発行元：ぽろろん 鈴木直子（いわき→川越／発行責任者）太田吉子（南相馬→坂戸）

高野美香子（南相馬→さいたま）松崎美由紀（いわき→上尾）吉田千亜（川越）

土屋聖子（さいたま）佐藤真由果（松戸→さいたま／デザイン・レイアウト）

タケダ・赤い羽根
広域避難者
支援プログラム

この冊子は、「タケダ・赤い羽根広域避難者プログラム」の助成金により制作されました。